活用の検討経過

学校名		旧　　三水第二　　小　学校
廃校年月		平成　30　年　3　月
検討開始の背景	検討の開始時期	平成　27　年　4　月
	検討開始の契機	☑ 政策方針　☐ 地域要望　☐ 財政負担軽減 ☐ その他　（　　）
	廃校時点の課題	☑ 管理コスト　☑ 老朽化　☐ 防犯 ☐ その他　（　　）
検討体制	検討主体	☐ 庁内　☑ 外部検討会　☐ 民間委託
	庁内部署の関与	☑ 総務・財政・管財　☑ 企画　☐ 商工・観光 ☐ 健康・福祉　☑ 教育・文化　☐ 公民連携 ☐ その他　（　　）
	外部専門家等	☐ 有り　☐ 無し
検討プロセス	検討期間 （開始～決定）	約　2　年
	検討した活用案	・若者や地域の子どもたちが集える複合的な施設 ・民間企業や創業希望者のテナント入居による産業振興施設 ・民間教育機関等の誘致　など
	検討の主なステップ	廃校予定学校区の地域住民組織で地域の中核施設としての利活用方法を検討した。 旧三水第二小学校：赤東みらい創造プロジェクト
	最終的な活用案に至った理由	将来の活用の柔軟性を確保するため、個別活用のアイデアではなく建物全体のコンセプトが町へ提言された。
	検討過程での課題や苦労した点	・廃校が2施設あったため、地域性を考慮する中での活用コンセプトの差別化と調整 ・公設民営を予定していたため、官民連携による運営会社（まちづくり会）の創設及び2施設の一体的な運営体制づくり

地域住民等の意見の把握・反映	住民への情報提供	☑ 広報　☑ 説明会　☐ 回覧等 ☐ その他　（　　）
	意見収集の方法	☑ 説明会　☑ ワークショップ　☑ アンケート ☐ その他　（　　）
	参加者の範囲	☑ 地域住民　☐ 卒業生　☐ 関係団体 ☐ その他　（　　）
	主な意見・要望の内容	地域学校としてシンボル的な存在のため、まだ十分使える思い出の校舎を壊さずに、多世代交流の拠点にしてほしい。
	意見に対する対応	平成28年に「しごとの創業・交流拠点」を構想する「赤東みらい創造プラン」が提言され、町では提言書をもとに改修工事を行った。 設計内容等が定まった際には、住民への意見聴取ではなく、説明を行った。
	合意形成において工夫した点	この組織は、学校区にある6区から選出された代表者12名と区長代表2名、議員代表2名、識見を有るもの1名の計17名で構成され、20代から70代まで幅広い年齢層の地域住民が男女バランスに配慮して参加した。
公共施設として転用	公共施設での活用を選択した理由	町内外の多様な人々が気軽に集え、様々な活用ができる施設とするためには、行政の責任のもとに、これまでにない場づくりをする必要があったことから、公設民営による活用方針とした。
	運営形態	☐ 直営　☑ 指定管理　☐ 委託 ☐ その他　（　　）
	条件で重視した点	☐ 契約価格　☑ 活用形態　☐ 事業期間 ☐ その他　（　　）

○いいづなコネクトWEST





